

**教育委員会の事務の管理及び
執行状況に関する点検・評価報告書
(令和3年度対象)**

**令和4年9月
新潟市教育委員会**

本報告書は、効果的な教育行政の推進に資するとともに市民への説明責任を果たしていくために、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という。）第26条の規定に基づき令和3年度の教育委員会の事務の管理及び執行状況について点検・評価を行い、その結果をまとめたものです。

— 目次 —

I 教育委員会の活動状況について

- 1 教育委員会会議の開催状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- 2 教育委員会会議以外の教育委員の活動状況・・・・・・・・・・3
- 3 令和3年度の主な取組と成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

II 新潟市教育ビジョンの施策評価について

- 1 令和3年度進捗状況最終評価施策一覧・・・・・・・・・・・・11
- 2 主な施策・事業の評価状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
- 3 教育ビジョン推進委員からの主な質問・意見・要望と教育委員会の対応
・・・・・・・・・・・・・・・・22

参考資料 新潟市教育ビジョン推進委員会令和3年度進捗状況評価経過

新潟市教育ビジョン推進委員会（第8期）委員名簿

・・・・・・・・・・27

【参考】

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

I 教育委員会の活動状況について

1 教育委員会会議の開催状況

○新潟市教育委員会定例会・臨時会

- 4月定例会 議案第 1号 博物館の登録等に関する規則の一部改正について
議案第 2号 新潟市文化財センター考古資料の寄託、借用及び貸出に関する規則の一部改正について
議案第 3号 令和4年度使用新潟市立小学校用教科用図書採択に関する基本方針について
議案第 4号 令和4年度使用新潟市立中学校用教科用図書採択に関する基本方針について
議案第 5号 令和4年度使用新潟市立高志中等教育学校前期課程用教科用図書採択に関する基本方針について
議案第 6号 令和4年度使用新潟市立特別支援学校・特別支援学級用教科用図書採択に関する基本方針について
議案第 7号 令和4年度使用新潟市立高等学校用教科用図書採択に関する基本方針について
議案第 8号 令和4年度使用新潟市立高志中等教育学校後期課程用教科用図書採択に関する基本方針について
議案第 9号 教職員の人事措置について
- 5月定例会 議案第10号 令和3年6月定例会の議案について
- 6月定例会 ー 報告案件のみ
- 7月定例会 議案第11号 令和4年度使用新潟市立中学校用教科用図書（社会歴史的分野）の採択について
議案第12号 令和4年度使用新潟市立高志中等教育学校前期課程用教科用図書(社会歴史的分野)の採択について
議案第13号 令和4年度使用新潟市立特別支援学校・特別支援学級用教科用図書の採択について
議案第14号 新潟市教育委員会組織規則の一部改正について
- 8月定例会 議案第15号 令和4年度使用新潟市立高等学校用教科用図書の採択について
議案第16号 令和4年度使用新潟市立高志中等教育学校後期課程用教科用図書の採択について
議案第17号 新潟市公文書管理条例施行に伴う関係法令の制定、廃止及び一部改正について
議案第18号 令和3年9月議会定例会の議案について

	議案第19号	教育委員会の事務の管理及び執行状況に関する 点検・評価（案）について
9月定例会	議案第20号	教職員の人事措置について
10月臨時会	議案第21号	教職員の人事措置について
10月定例会	—	報告案件のみ
11月定例会	議案第22号	令和3年11月議会臨時会の議案について
	議案第23号	令和3年12月議会定例会の議案について
12月定例会	議案第24号	新潟市教育職員の勤務時間、休暇等に関する条例施行規則の 一部改正について
	議案第25号	新潟市文化財センターの開館時間を臨時に変更することについて
	議案第26号	教職員の人事措置について
	議案第27号	訴訟について
1月定例会	—	報告案件のみ
2月定例会	議案第28号	新潟市立図書館条例施行規則の一部改正について
	議案第29号	令和4年2月議会定例会の議案について
	議案第30号	市立学校園長の人事について
3月定例会	議案第31号	新潟市教育委員会組織規則の一部改正について
	議案第32号	新潟市公民館条例施行規則の一部改正について
	議案第33号	新潟市学校給食センター条例施行規則の一部改正について
	議案第34号	新潟市教育委員会事務専決規程の一部改正について
	議案第35号	新潟市教育委員会情報通信技術の活用に関する規程の 一部改正について
	議案第36号	新潟市立学校等に勤務する会計年度任用職員の週休日並びに 給与及び報酬の特例に関する規則の制定について
	議案第37号	教育財産の用途廃止について
	議案第38号	事務局及び機関の長の人事について

○教育委員会会議の公開等に関すること

- ・会議について 原則公開（人事案件等非公開の場合あり）
- ・開催案内について ホームページ・市報にいがた等に掲載
- ・会議案件について ホームページで案件名を事前に公開
- ・会議録について 会議終了後、会議速報をホームページに掲載
会議録作成後、速やかに、ホームページに掲載及び
市政情報室において公開

- ・地教行法等に基づき、新潟市では教育委員会定例会を毎月開催するほか、必要に応じて臨時会を開催しており、令和3年度は13回の会議（定例会12回、臨時会1回）を開催しました。（付議事件38件、報告案件39件）
- ・重要な案件については、教育委員会定例会の付議事件とする前に協議会の場において事前協議を行い、十分な検討を重ねています。（協議会案件1件）

2 教育委員会会議以外の教育委員の活動状況

○意見交換会・懇談会

- 令和 3年12月～令和 4年 1月 区教育ミーティング
- 令和 4年 3月 総合教育会議
- 令和 4年 3月 社会教育委員との懇談会

○学校視察

- 令和 3年 9月～令和 4年 1月 地域連携事業（小学校3校、中学校3校）

3 令和3年度の主な取組と成果

新潟市教育ビジョン第4期実施計画は、令和2年度から令和6年度までの5か年を期間とし、「これからの社会をたくましく生き抜く力の育成」を中心的な考え方のテーマに、12の基本施策と34の施策、更に5つの視点からなる重点施策を位置付けています。

計画2年目となる令和3年度は、全34施策のうち指標目標を上回って達成した「評価4」と、概ね達成した「評価3」は合計23施策で、全体としては前年度を下回る74.2%となりました。主な要因としては、令和2年度は新型コロナウイルス感染症による影響を考慮し、指標目標を変更したことによるものです。一方、令和3年度は指標目標を変更せずに様々な対策及び工夫により施策を推進したことで、全体の評価は下がったものの、多くの施策において前年度の数値を上回ることができました。

また、重点施策においては、全16施策のうち「評価4」と「評価3」となった施策は12施策で令和2年度と同程度の75.0%となりました。

令和3年度の主な取組と成果は、次の通りです。

① 新型コロナウイルス感染症への対応

前年度に引き続き、国の予算を最大限活用しながら、適切な感染症対策と学校活動の両立を図りました。

内容としては、家庭でのオンライン学習を可能とするため、令和3年7月から全学校で学習用端末(タブレット)の家庭への持ち帰りを実施するとともに、インターネット環境がない家庭にはルーターの貸出などを行いました。あわせて、児童生徒同士の接触機会の軽減や密を回避するため、全ての教室に無線投影装置を配置したほか、体育館には大型モニターを整備するなど、感染症対策と教育活動の両立に取り組みました。一方、オンライン学習における課題として、欠席した児童生徒への配信専用端末がなかったため、令和4年度に各学級1台の配信専用端末を配備する予定です。

また、令和3年10月からは感染症対策などにより負担が大きくなった教職員を補助するため、スクール・サポート・スタッフを全小中学校に配置し、校内の消毒作業や授業準備を行いました。

さらに、校外学習機会が減少した子どもたちに、地域の魅力発見や地域理解を促すため、交通費等を補助する取組を実施しました。

これらにより、学校園内での感染拡大を防止するとともに、児童生徒の就学機会を保障することができました。

② G I G Aスクール構想の推進

G I G Aスクール構想の更なる推進のため、市立小・中学校等に加え市立高等学校3校に、1人1台の端末を整備しました。

また、インターネット回線帯域のひっ迫による通信の遅延解消のため、学習用端末（タブレット）から直接接続できる回線を整備するなど、インターネット利用環境の改善に取り組みました。

また、令和3年4月から情報通信技術支援員（I C T支援員）を配置したほか、電話によるサポートデスク及びG I G Aスクールの専用ホームページ「G I G A S U P P O R T W E B」を運営するなど、教職員と児童生徒への支援に努めました。さらに、令和4年2月には、民間事業者を活用したG I G Aスクール運営支援センター準備事務局を立ち上げ、学校支援をワンストップで行うことで、学校現場の負担を軽減するとともに、子どもたちが学習のために使用する学習eポータルを整備と活用等、新しい整備課題についても対応を始めています。

③ 基礎・基本を身に付ける教育の推進

新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度に実施できなかった学校園への指導主事計画訪問を、オンラインも活用しながら、予定していた学校園で実施し、訪問した学校での授業参観を基に、「子どもがI C Tを活用した授業づくり」に対する指導・支援を行いました。

また、個に応じた学習を進めるために、学習ボランティアの派遣やアフタースクール学習支援事業により学習環境の整備を図るなど、児童生徒一人一人の主体的に学ぶ意欲・態度の育成や、学力実態の的確な把握ときめ細かな指導に努めました。これらの取組により、小6と中3の全国学力学習状況調査や中2の英語と理科での標準学力検査において、全国平均以上の結果となりました。

一方で令和元年度と比べ低下している教科もあるため、今後も学習用端末（タブレット）の効果的な利活用を含め、情報活用能力の育成が図られるよう各校に情報を提供し、教職員の実態に応じた研修を進めていきます。

④ 体力づくりの推進

学習指導要領の改訂を受け、体育の授業では、身に付けさせたい資質・能力を明確にして授業づくりをしたり、ゲーム性のある運動を取り入れて意欲的に取り組めるようにしました。また、運動が苦手な児童生徒も運動の楽しさを実感し、意欲を持てるように指導を工夫したことで、体を動かした遊びや運動・スポーツを行うことについて肯定的な回答をした割合が85.5%となり、高い水準を維持することができました。

一方、運動することを好まない子どもが少数ながらいることや、体力面では投力が苦手な子どもが多いことから、学校独自の取組を計画したり、取組の内容を各校で共有するなど、より一層、運動への意欲や体力の向上につながる取組を進めていきます。

⑤ 一人一人の成長を促す生徒指導の推進

引き続き、学級の支持的風土の醸成を図り、児童生徒一人一人の自己肯定感を高める教育活動の実践・啓発に努めました。

本市では、いじめの認知件数はこれまで同様に多いのですが、「新潟市いじめ防止市民フォーラム」の実施のほか、「いじめ初期対応ガイドブック」の活用や、「いじめ状況調査」を行うなどきめ細かに対応したことにより、いじめの重大事態は極めて少ない状況にあります。また、子どもの発達段階に応じた未然防止の取組を推進したほか、新たに中学校で「いじめ道徳特別活動プロジェクトチーム」を立ち上げ、「いじめの知識・理解の授業」「いじめ道徳授業」の指導案作成に着手するなど、いじめ件数の減少に努めました。

増加傾向にある不登校児童生徒への対応として、「不登校初期対応ガイドブック」や「学校復帰に向けた支援シート（6つの視点）」を活用した支援をもとに、本人や保護者と学校が連携を図ることで抑制に努めました。今後は、児童生徒の教室復帰や再登校の視点だけでなく、関係機関と連携しながら社会的自立に向けた支援体制を充実させていきます。

また、「落ち着かない学級」への支援では、早い段階から学校と連携を図り、落ち着かない程度を段階表にするなど、課題解決に向けた体制の構築を図りました。

特別支援学級・学校等の児童生徒の増加など、高まり続ける特別支援教育への社会的ニーズと課題に的確に対応するほか、政策企画立案能力を強化するため、組織を見直し新たに「特別支援教育課」を設置しました。今後は、共生社会の実現を目指すインクルーシブ教育システムの更なる推進に向けて取り組んでいきます。

⑥ 教育関係職員の研修プログラムの充実

教職員の資質能力のより一層の向上を図るため、キャリアステージに応じた研修や教職員の専門性向上に関わる研修を73講座実施しました。特に、若手教員研修、中堅教諭等資質向上研修では、指導主事による丁寧なマンツーマン指導で受講者の課題に向き合い、一人一人の授業力を高めました。

また、特別支援教育やいじめ・不登校、ICT活用など、喫緊の教育課題に対応した研修講座を実施し、教職員の取組を支援しました。

さらに、新型コロナウイルス感染症対策を十分に行いながら対面型研修を実施する一方、令和2年度に満足度が低かった非対面型研修についても演習を実施するなどの改善を図ったことにより、受講者の満足度・活用度が向上しました。

今後も社会状況の変化を見据えた研修体系の確立を図りながら、教職員の若年化に対応した研修を実施します。

⑦ 多忙化解消対策の推進と教職員のヘルスケア

令和3年4月から第3次多忙化解消行動計画を施行し、(1) 地域・保護者・外部人材等との協働・分担、(2) 同僚との協働・分担、(3) 教育委員会等との協働・分担による35の取組、とりわけ「デジタル化・オンライン化の推進」と「教頭の多忙化解消」に重点を置いて取組を進めました。

令和3年度は、長期休業中の休暇取得促進日の設定を増やしたことなどにより、年間14日以上有給休暇を取得する教職員の割合が63.0%となり、前年度から18.5ポイント増加しました。

一方、月当たり平均時間外在校等時間45時間を超える教職員の割合は、部活動指導員の配置による効果はあったものの、全体では35.6%で、前年度から9.3ポイント増加し、新型コロナウイルス感染症の影響がなかった平成30年度の水準に後退してしまったことから、「地域総がかりで子どもの成長を支える体制の推進」を重点取組に加え、これまで以上に教職員の負担軽減を図っていきます。

また、教職員の健康状態を改善するため、管理職等に向けたメンタルヘルス研修の開催のほか、医師による長時間労働者への面接指導や、保健師による高ストレス者への相談支援に取り組んだ結果、病休者数が令和2年度の119名から109名に減少しました。一方、精神疾患については、57名で、令和2年度と同数であったため、引き続き、メンタルヘルス不調の未然防止や早期発見に向けた取組を実施し、精神疾患による病休者数の減少に努めていきます。

⑧ 主体的な学習を支えるシステムづくり

より地域と学校がつながるよう、引き続き生涯学習ボランティア育成講座を実施し、市民が生涯学習に関する豊かな知識や経験、優れた技術を教育活動や地域に生かしていただくとともに、地域人材の発掘にも努めました。一方、生涯学習ボランティアの高齢化や会員の減少などにより、活動の停滞・休止が見受けられることから、今後はボランティアの組織体制の再編を検討していきます。

市民の多様なニーズや生活スタイルに応じるため、近隣市と連携し「研修・講演・講師紹介ガイド(人材ガイド)」の情報共有や、にいがた市民大学における遠隔講義の実施、家庭教育支援プログラムの作成などを通して、市民の主体的な学習活動を推進することができました。

今後も、多様な学習機会の提供や人材育成に取り組むとともに、地域や学校などと連携し、学習成果を生かす活動を支援します。

⑨ 家庭教育の充実と子育て支援

子育て各期に応じた家庭教育学級を69講座実施したほか、乳幼児期の親子の交流や仲間づくりの場である子育てサロンを15公民館で開設するなど、親としての「考える力や適応する力」の向上や「子育てへの不安感・負担感」の軽減を図りました。

また、オンラインのプログラムを含んだ講座を実施したことで、自宅等に行ながらの学習・交流が可能になるなど、コロナ禍での学習機会の充実にも取り組みました。

未来の地域の担い手である子どもたちの人格形成においては、親の子育てへの関心や家庭環境などが大きく影響することから、子育て期の親の「家庭教育力向上」を図る講座等を今後も実践していくとともに、保健的な視点から様々な子育て支援に取り組んでいるこども未来部と連携しながら、双方の取組を一元的に市民へ提供できる機会の創出などについて検討を進めていきます。

⑩ 豊かな「子どもの読書環境」づくり

第三次新潟市子ども読書活動推進計画（令和2～6年度）に基づき、図書館をはじめ、家庭、幼稚園・保育園・認定こども園、学校、地域において、子どもの読書環境の整備を進めました。内容としては、ブックスタート事業や家族と一緒に読書を楽しむ「うちどく」、子育て世代の図書館利用を促す「赤ちゃんタイム」「絵本なんでも相談タイム」の拡大など、読書活動の充実に取り組みました。

また、非来館型サービスへのニーズ等に対応するとともに、児童生徒の読書や学習支援を図るため、電子図書館を整備し、令和4年3月から電子書籍の貸出を開始しました。

学校図書館支援センター事業では、オンラインも活用し、学校図書館訪問による相談対応、学校への団体貸出、学校司書向けの研修などを行い、授業や読書活動を支援しました。

今後も、子どもに関わる機関等と連携しながら、子どもの読書環境の充実を図ります。

⑪ 地域とともにある学校づくりの推進

「コミュニティ・スクール推進事業」については、「地域とともにある学校」づくりを進めるため、22校のモデル校で学校運営協議会を設置し、保護者、地域、学校が一体となって子どもの成長を支える体制を構築しました。

協議会では、教育活動の点検、評価に加え、保護者、地域の思いが反映された基本方針を練り上げるとともに、これからの学習支援や子どもの地域貢献、安心安全な教育活動などについて、肯定的で未来志向の話し合いが行われたことで、地域の未来を託せる子どもを育てる機運がより一層高まりました。

一方、コミュニティ・スクールの制度や学校運営協議会の役割などの認知度が高まっていないことから、協議会が効果的に運用されるよう市民への周知に努めていきます。

「地域と学校パートナーシップ事業」については、学校と地域が連携・協働した取組を進め、延べ事業数は前年度から10%、学校支援ボランティアの延べ人数は前年度から9%の増加となり、回復傾向にあります。これは、学校と地域双方の「子どもたちのため、できることから取り組んでいこう」という姿勢が反映したものと捉えています。

「子どもふれあいスクール事業」については、感染症対策に係る注意点などをまとめたガイドラインを状況にあわせて修正したほか、各校で行われる運営委員会に指導主事が参加し、教職員・運営主任・スタッフとの話し合いを重ねてきたことにより、56校（設置校の85%）において、事業を実施することができました。

⑫ 全国高等学校総合体育大会（インターハイ）の開催

新型コロナウイルス感染症の影響により無観客開催となりましたが、新潟市では、バスケットボール女子と新体操の2競技を開催し、選手・監督合わせて1,397人が参加しました。競技ごとに感染予防を徹底することで、開催期間中に陽性者を発生させることなく終了することができました。

また、高校生によるカウントダウンボードの制作や大会会場の草花装飾など、様々な活動を通じて、生徒の親睦を深め、豊かな心とボランティア精神を育成するなど、人間的成長にも結びつけることが出来ました。

II 新潟市教育ビジョンの施策評価について

新潟市教育ビジョンの令和3年度の実施状況について、有識者の知見を活用した評価を以下に示します。

1 令和3年度進捗状況最終評価施策一覧

● 施策を構成する事業の進捗状況平均分布（全施策）

評価4 … 指標を達成した	29.0%	}74.2%
評価3 … 指標を概ね達成した	45.2%	
評価2 … 指標を下回った	22.6%	
評価1 … 指標を大きく下回った	3.2%	

● 施策を構成する事業の進捗状況平均分布（視点1～5）

評価4 … 指標を達成した	6.3%	}75.0%
評価3 … 指標を概ね達成した	68.8%	
評価2 … 指標を下回った	25.0%	
評価1 … 指標を大きく下回った	0.0%	

※各平均分布の合計値が、計算時の四捨五入の関係上、必ずしも100%にならない場合があります。

<重点施策>

【視点1】 これからの社会で自信をもって自己実現していける子どもを育てます。
 【視点2】 学びの循環による人づくり、地域づくりを進めます。
 【視点3】 地域と一体となった学校づくりを進めます。

【視点4】 誰もが安心して学べる環境づくりを進めます。
 【視点5】 市民に信頼される、魅力ある教育関係職員の育成に努めます。

基本施策（12施策）	施策（34施策）			施策を構成する事業の進捗状況平均
	網掛…【視点1】～【視点5】に該当する施策			
1 確かな学力の向上	1-1	資質・能力を育む授業づくりの推進	【視点1】	2.8
	1-2	学び続ける資質・能力を育むキャリア教育の推進	【視点1】	3.3
	1-3	実感を伴って学ぶアグリ・スタディ・プログラムの推進		3.0
	1-4	読書活動の推進と新聞活用の充実		4.0
2 豊かな心と健やかな身体の育成	2-1	いのちの教育・心の教育の推進	【視点4】	3.8
	2-2	自立を促す生徒指導の推進	【視点4】	3.4
	2-3	体験活動の充実		4.0
	2-4	体力づくりの推進		3.5
	2-5	健康づくり・食育の推進	【視点4】	2.5
	2-6	青少年の健全育成の推進		2.3
3 創造性に富み、世界と共に生きる力の育成	3-1	地域学習の充実		4.0
	3-2	外国語教育・国際理解教育の充実	【視点1】	3.5
	3-3	情報教育の充実とICTを活用した教育の推進	【視点1】	3.8
	3-4	社会の変化や新たな課題に対応できる教育の推進		4.0
	3-5	帰国・外国人園児児童生徒への教育の推進		4.0
4 共生社会の実現を目指すインクルーシブ教育システムの推進	4-1	子ども一人一人のニーズと課題に対応した特別支援教育の推進	【視点4】	3.3
5 校種間・学校間連携を生かした特色ある学校園づくり	5-1	就学前から義務教育修了までの一貫した教育の推進		3.5
6 人権を守り共に支え合う社会の推進	6-1	人権教育・同和教育の推進、男女平等教育の推進		4.0
	7-1	家庭教育・子育て支援の充実	【視点2】	3.5
7 家庭教育の充実と子育て支援	7-2	乳幼児期からの読書活動推進	【視点2】	4.0
	8-1	学び育つ各世代への支援	【視点2】	3.0
8 人生100年時代を見据えた循環型生涯学習の推進	8-2	学習成果を生かす活動への支援	【視点2】	3.3
	9 地域と学校・社会教育施設が協働する教育の推進	9-1	地域と共にある学校づくりの推進	【視点3】
9-2		広報広聴活動の推進		4.0
9-3		地域人材や高等教育機関、企業等との連携の推進		1.5
10 学びのセーフティネットの構築に向けた取組の推進	10-1	保護者や地域と連携した安心安全な学校づくりの推進	【視点4】	2.5
	10-2	教育の機会均等を図るための取組の推進	【視点4】	
11 学校教育・生涯学習環境の基盤づくり	11-1	学校施設の整備		4.0
	11-2	市民の多様な学習に応じた学習環境の整備	【視点4】	2.0
	11-3	学校適正配置に向けた取組		
	11-4	市立幼稚園の再編に向けた取組		
12 市民に信頼される教育関係職員の育成	12-1	教育関係職員の研修プログラムの充実	【視点5】	3.7
	12-2	教職員への支援体制の充実		2.7
	12-3	信頼される教職員の採用・登用・配置		2.5

2 主な施策・事業の評価状況

重点施策「視点1～視点5」に該当する施策を取り上げています。

1 確かな学力の向上

1-1 資質・能力を育む授業づくりの推進

事業の進捗平均
2.8

事業1 「主体的・対話的で深い学び」を視点とした教育活動の推進

指標1	研修会参加者の理解度 (%)						R3進捗評価
II型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		80	前年度を上回る	前年度を上回る	前年度を上回る	90	
進捗状況	-	77.6	92.4				
指標2	アンケートで「今後に生かすことができる」と回答した参加者の割合 (%)						R3進捗評価
II型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	3
指標目標		80	前年度以上	前年度以上	前年度以上	90	
進捗状況	-	88.9	86.7				

事業2 アフタースクール学習支援事業

指標1	生徒アンケートで「参加してよかった」と回答した生徒の割合 (%)						R3進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	3
指標目標		88	91	94	97	100	
進捗状況	86.8	88.2	88.7				

事業3 学習支援ボランティア派遣事業

指標1	学習支援ボランティアが派遣された学校で「児童生徒の基礎・基本の定着に効果的」と肯定的に回答した学校の割合 (%)						R3進捗評価
II型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	3
指標目標		80	前年度を上回る	前年度を上回る	前年度を上回る	90	
進捗状況	-	99	98.8				
指標2	学習支援ボランティア派遣人数						R3進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	3
指標目標		180	180	180	190	190	
進捗状況	175	114	166				

事業4 理科支援員派遣事業

指標1	配置校の理科授業における「授業への効果」に肯定的に回答した学校の割合 (%)						R3進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	3
指標目標		100	100	100	100	100	
進捗状況	99	100	96.8				

事業5 家庭学習習慣の定着

指標1	新潟市生活・学習意識調査で、市の目安とする家庭学習時間(40分)を達成した児童(小4)の割合 (%)						R3進捗評価
II型	R1	R2	R3	R4	R5	R6	3
指標目標		前年度を上回る	前年度を上回る	前年度を上回る	前年度を上回る	90	
進捗状況	87	81.6	79.0				
指標2	新潟市生活・学習意識調査で、市の目安とする家庭学習時間(60分)を達成した児童(小6)の割合 (%)						R3進捗評価
II型	R1	R2	R3	R4	R5	R6	3
指標目標		前年度を上回る	前年度を上回る	前年度を上回る	前年度を上回る	80	
進捗状況	76	60.6	57.9				
指標3	新潟市生活・学習意識調査で、市の目安とする家庭学習時間(120分)を達成した生徒(中3)の割合 (%)						R3進捗評価
II型	R1	R2	R3	R4	R5	R6	3
指標目標		前年度を上回る	前年度を上回る	前年度を上回る	前年度を上回る	50	
進捗状況	30	34.5	32.8				

<○：成果と課題／●：今後の方向性>

【視点1】

これからの社会で自信をもって自己実現していける子どもを育てます。

○学校への計画訪問での公開授業等の参観を通して、実践の成果を市内学校園へ紹介することができた。一方、ICT端末の利活用で主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改革が図られるように継続した指導・支援が必要である。

●単元の中で育成すべき資質・能力を明確にした指導が行えるよう、学校に対し単元デザインについての周知に力を入れる。

○約50名の学習支援員の協力のもと、多くの生徒の学ぶ機会を保障することができた。アンケートでは、R2より生徒の肯定的な回答が増加したが、R3の指標目標を下回る結果となった。

●各校の実態を踏まえた支援となるよう、各校と随時連絡調整を図る。

○コロナ禍の中、従来通りの派遣が難しかったが、学校から高評価を得ている。より一層個に応じた指導が行われるよう、大学との連携を密に図り、学生への指導・支援を丁寧に行う必要がある。

●学習支援ボランティアの要請が非常に多いため、大学と新型コロナウイルス感染症対策と派遣要件(参加学生の資格)・条件(時期・回数)等を調整し、可能な限り派遣ができるようにする。

○授業への効果に肯定的に回答した学校が非常に多い。一方、支援員に求められる知識・専門性がより高度となってきており、人員の確保及び指導・支援が必要である。

●支援員としての経験が豊富であったり、教員経験があったり、理科(科学)的な知識を有していたりする人材を確保し、学校の実態や要望に応じた配置を行っていく。

○調査において、学習時間との相関関係のある項目「宿題をきちんとやっている」児童生徒は、小4が94.3%、小6が93.2%、中3が89.3%で、継続的な指導により学習習慣は定着している。一方で、「宿題以外にも自主的に家で勉強している」児童生徒は、小4が73.8%、小6が73.5%で、中3が77%であり、宿題だけを行い家庭学習を終了している児童生徒が一定数いる。

●家庭学習の内容面の充実が図られるよう、ICT端末を活用した家庭学習の取組や中学校区内の小中学校で連携した取組等、効果的な学習に向けて参考となる例を紹介していく。また、ICT端末を活用した学習時間の可視化等の工夫を提案していく。

事業6 学力実態調査の分析

指標1	全国学力・学習状況調査（小6国語）で、全国の平均正答率に対する新潟市の平均正答率の差（ポイント）						R3進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	1
指標目標		+5.2	+5.4	+5.6	+5.8	+6.0	
進捗状況	+5.0	-	+1.7				
指標2	全国学力・学習状況調査（小6算数）で、全国の平均正答率に対する新潟市の平均正答率の差（ポイント）						R3進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	1
指標目標		+1.0	+1.4	+1.8	+2.4	+3.0	
進捗状況	+0.6	-	+0.7				
指標3	全国学力・学習状況調査（中3国語）で、全国の平均正答率に対する新潟市の平均正答率の差（ポイント）						R3進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	2
指標目標		+2.0	+2.5	+3.0	+3.5	+4.0	
進捗状況	+1.6	-	+1.9				
指標4	全国学力・学習状況調査（中3数学）で、全国の平均正答率に対する新潟市の平均正答率の差（ポイント）						R3進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	2
指標目標		+2.0	+2.5	+3.0	+3.5	+4.0	
進捗状況	+1.7	-	+1.9				
指標5	全国学力・学習状況調査（中3英語）で、全国の平均正答率に対する新潟市の平均正答率の差（ポイント）						R3進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	
指標目標				+3.0			
進捗状況	+0.3						
指標6	全国学力・学習状況調査（中3理科）で、全国の平均正答率に対する新潟市の平均正答率の差（ポイント）						R3進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	
指標目標			+2.0			+3.0	
進捗状況	H30 +1.0		-				
指標7	全国学力・学習状況調査児童質問紙の質問項目「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」で、肯定的な回答をした児童（小6）の割合（%）						R3進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		84.0	85.0	86.0	87.5	90.0	
進捗状況	83.8	-	87.3				
指標8	全国学力・学習状況調査生徒質問紙の質問項目「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」で、肯定的な回答をした生徒（中3）の割合（%）						R3進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		83.0	84.0	85.0	87.0	90.0	
進捗状況	82.8	-	87.0				

○全国学力・学習状況調査が2年ぶりに実施され、全ての教科において全国の平均正答率を上回る結果となった。特に中学校国語と数学では、+1.9ポイントとなり、令和元年度と比べても向上している。一方で、小学校国語については令和元年度より-3.3ポイントとなった。小学校算数も令和元年度より+0.1ポイントに留まり、向上は十分とはいえない。

また、指標7、8では指標目標を上回ったことと各教科の結果とを併せて考えると、「学びに向かう力、人間性等」は十分に育成できていることから、今後は、「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」という資質・能力の育成に重点をおいて授業改革を推進していく必要がある。

●全市の半数で学校訪問を実施し、各校において、児童生徒が「考えを形成し、獲得した知識や考え方を表現すること」（＝アウトプット）に重点をおいて指導・支援してきた。引き続き、「組織的な授業改革が行われるよう支援し、「質の高いアウトプット」が日々の授業で実現されることを目指す。

1-2 学び続ける資質・能力を育むキャリア教育の推進

事業の進捗平均	3.3
---------	-----

【視点1】

これからの社会で自信をもって自己実現していける子どもを育てます。

事業1 キャリア教育推進事業

指標1	全国学力・学習状況調査児童質問紙「将来の夢や目標を持っていますか」で肯定的に回答した児童（小6）の割合（%）						R3進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	3
指標目標		85	85	86	86	86	
進捗状況	84.9	77.5	80.9				
指標2	全国学力・学習状況調査生徒質問紙「将来の夢や目標を持っていますか」で肯定的に回答した生徒（中3）の割合（%）						R3進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	3
指標目標		72	72	73	73	74	
進捗状況	71.8	67.2	68.9				
指標3	キャリア・パスポート、キャリア・ノートを活用した取組を実施している学校の割合（%）						R3進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		95	前年度以上	前年度以上	前年度以上	100	
進捗状況	-	98.2	100				

○全小中学校がキャリア・パスポート等を活用した取組を実施するとともに、高等学校では、様々な職業分野で活躍している方や大学関係者との交流、講話等によって、将来のライフワークを考えるきっかけになり、進路意識を醸成することができた。

○小学校6年生、中学校3年生ともに「将来の夢や目標」に対する肯定的な回答が、令和元年度や指標目標を下回った。キャリア・パスポートの作成で終わるのではなく、他者とかかわりながら、自分の将来を考えるきっかけとなるような工夫が必要である。

●キャリア教育研修会を通して、キャリア・パスポートの効果的な活用方法を共有するなど、キャリア教育の充実を図る。

事業2 市立高等学校・中等教育学校後期課程のキャリア教育推進事業

指標1	高等教育機関・産業界・地域の各機関と連携した教育活動によって、キャリア発達に資する思考力・判断力・表現力が育まれたと回答した生徒の割合（%）						R3進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	3
指標目標		60	前年度以上	前年度以上	前年度以上	85	
進捗状況	-	93	90				

○教育課程内での講演や夏季休業中における体験活動を実施することで、生徒の学習意欲を向上させ、大学等への進学実績に影響を与えた。一方で、土曜日に地域の方々等を招いた講演など、積極的に地域との交流を図ったにもかかわらず、数値が低い学校もあった。原因としては、講演の意図が伝わっていなかったこと、生徒の現状に沿わない講演が実施されたこと、生徒が消極的な自己評価を行ったことが考えられる。

2 豊かな心と健やかな身体の育成

2-1 いのちの教育・心の教育の推進

事業の進捗平均
3.8

【視点4】

誰もが安心して学べる環境づくりを進めます。

事業1 道徳教育の充実、福祉教育の充実							R3進捗評価
指標1	新潟市生活・学習意識調査で、「自分にはよいところがあります」と回答した児童(小6)の割合(%)						
II型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		81	前年度以上	前年度以上	前年度以上	85	
進捗状況	80.1	77.2	78.8				
指標2	新潟市生活・学習意識調査で、「自分にはよいところがあります」と回答した生徒(中3)の割合(%)						R3進捗評価
II型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		75	前年度以上	前年度以上	前年度以上	85	
進捗状況	78	77.3	77.6				
指標3	新潟市生活・学習意識調査で、「友達のよいところを見つけたり、友達が落ちこんでいるとき、はげましたりしています」と回答した児童(小6)の割合(%)						R3進捗評価
II型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		90	前年度以上	前年度以上	前年度以上	95	
進捗状況	90.3	90.1	91.9				
指標4	新潟市生活・学習意識調査で、「友達のよいところを見つけたり、友達が落ちこんでいるとき、はげましたりしています」と回答した生徒(中3)の割合(%)						R3進捗評価
II型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		91	前年度以上	前年度以上	前年度以上	95	
進捗状況	91.9	92.3	92.8				
指標5	全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙で、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と回答した児童(小6)の割合(%)						R3進捗評価
II型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		98	前年度以上	前年度以上	前年度以上	100	
進捗状況	98.0	97.3	97.4				
指標6	全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙で、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と回答した生徒(中3)の割合(%)						R3進捗評価
II型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	3
指標目標		97	前年度以上	前年度以上	前年度以上	100	
進捗状況	96.1	96.8	96.6				

※指標1~4の進捗状況の現状に誤りがあったため修正した。なお、修正前は指標1:80%、指標2:74.4%、指標3:89.9%、指標4:90.6%となっていた。

2-2 自立を促す生徒指導の推進

事業の進捗平均
3.4

【視点4】

誰もが安心して学べる環境づくりを進めます。

事業1 自律性と社会性を育む生徒指導の推進事業							R3進捗評価
指標1	新潟市生活・学習意識調査の質問「地域の大人とあいさつしたり、言葉をかわしたりしています」の肯定的な回答の割合(%)						
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	3
指標目標		86	86	87	87	88	
進捗状況	85.2	86.0	84.7				
指標2	新潟市生活・学習意識調査の質問「学校生活は楽しい」の肯定的な回答の割合(%)						R3進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	3
指標目標		92	92	93	93	94	
進捗状況	91.3	91.6	90.3				
指標3	新潟市生活・学習意識調査の質問「友達のよいところを見つけたり、友達が落ちこんでいるとき、はげましたりしています」の肯定的な回答の割合(%)						R3進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		90	90	91	91	92	
進捗状況	89.1	89.8	90.7				
指標4	新潟市生活・学習意識調査の質問「学校生活で、友達と力を合わせて学習したり、活動したりしています」の肯定的な回答の割合(%)						R3進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		92	92	93	93	94	
進捗状況	91.9	92.6	93.2				
指標5	新潟市生活・学習意識調査の質問「地域の大人から話やアドバイスを聞いて、分かったり、できたりすることがよくあります」の肯定的な回答の割合(%)						R3進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		69	69	70	70	71	
進捗状況	68.5	72.1	71.6				

※対象は、小学校3年生から中学校3年生までの児童生徒。

○「地域の大人とあいさつしたり、言葉をかわしたりしています」の項目の低下については、依然として体験的な学習や地域とかかわりのある活動が困難で、自己有用感に気付く場面が少なかったことが要因と思われる。

○「学校生活は楽しい」の項目の低下については、コロナ禍で友達との接触や遊びが制限された上、給食時も黙食となるなど、感染対策の長期化が要因と思われる。一方、「友達を励ましたり、力を合わせて活動したりしている」の項目については、ソーシャルディスタンスを確保した中でも、共に伸びている。今後、新しい生活様式が続く中でも、自己肯定感と自己有用感、コミュニケーション力を高めることができる活動を意図的に取り入れていく必要がある。

●各校で新潟市生活・学習意識調査を振り返り、年度当初に各種計画の見直しを進める。新しい生活様式が続く中でも、自己肯定感と自己有用感、コミュニケーション力を高めることができるよう各種計画を見直し、地域連携を含めた活動を積極的に進めていく。

事業2 いじめ・不登校対応への支援カウンセラー等活用事業

指標1 いじめの解消率 (%)							R3進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		97	97	97	97	97	
進捗状況	95.6	97.2	99.4				
指標2 不登校傾向児童生徒の解消率 (%) ←※指標変更 (R3.2承認)							R3進捗評価
II型	R1	R2	R3	R4	R5	R6	1
指標目標		前年度以上	前年度以上	前年度以上	前年度以上	前年度以上	
進捗状況	27.9	51.0	35.5				
指標3 不登校児童生徒のうち学校内外の機関から相談・指導等を受けた割合 (%) ←※指標変更 (R3.2承認)							R3進捗評価
II型	R1	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		前年度以上	前年度以上	前年度以上	前年度以上	前年度以上	
進捗状況	63.0	57.0	76.2				
指標4 スクールカウンセラーが配置されたことで効果がみられたと回答した学校の割合 (%)							R3進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		100	100	100	100	100	
進捗状況	98.0	100	100				

※指標3の進捗状況の現状として示した63.0%の値は、適応指導教室や相談室登校、保健室登校の数を含めた「別室登校数」をカウントして数値化していたが、R2年度の調査の際に適応指導教室に通っている生徒の数を正確に把握することができなことがわかり、「別室登校数」を現状値から除いた場合、57.2%になる。

○いじめの解消率が上昇しているのは、「いじめ初期対応ガイドブック」が適切に活用され、いじめの芽が小さいうちに解決できていることが要因であり、結果としていじめ重大事態は起こっていない。児童生徒の発達段階に応じたいじめの知識理解や心の教育を進めることで、いじめの案件自体を減少させていく必要がある。

○不登校傾向児童生徒の解消率の低下は、国の「不登校児童生徒への社会的自立に対する支援」が浸透してきたことも要因と考えられる。学校現場では関係機関との連携を図り、一人一人の児童生徒に寄り添った対応を進めることができた。

●いじめの未然防止のための道徳・特別活動プロジェクトチームによる授業の事例集を全市の小中学校に配布し、実践につなげる。

●不登校の対応では、毎月の「不登校・不登校傾向児童生徒報告」による変容把握の一連の取組や「児童生徒理解教育支援シート」のより一層の有効活用を図るとともに、関係機関との連携をより一層深める。

2-5 健康づくり・食育の推進

事業の進捗平均
2.5

【視点4】

誰もが安心して学べる環境づくりを進めます。

事業1 児童生徒の生活習慣病予防対策事業

指標1 肥満傾向の児童生徒の割合 (%) ※減少指標目標							R3進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	2
指標目標		7.32	7.32	7.32	7.01	7.01	
進捗状況	7.32	8.08	8.56				
指標2 痩身傾向の児童生徒の割合 (%) ※減少指標目標							R3進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		2.43	2.43	2.43	2.41	2.41	
進捗状況	2.43	2.58	2.40				

○令和3年度は、小児科医による生活習慣病に関するオンライン講演会を保護者に向け開催し、生活習慣病予防の啓発を図った。コロナ禍の長期化による日常生活の変化を踏まえ、生活習慣病をはじめとする児童生徒の心身への影響を注視していく必要がある。

●運動不足や栄養摂取の偏り、不規則な生活などによる生活習慣病を防ぐため、引き続き、早期からの啓発活動とともに、よりよい生活習慣を身に付ける機会となる生活習慣病健診を実施する。

事業2 児童生徒のむし歯・歯周疾患予防対策事業

指標1 中学1年生一人平均むし歯(う歯)本数 ※減少指標目標							R3進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		0.37	0.36	0.35	0.34	0.33	
進捗状況	0.38	0.32	0.27				

○コロナ禍の影響を考慮し、フッ化物洗口を休止するケースも一部あったが可能な範囲で実施するとともに、巡回歯科指導は実技指導から講話形式に変更するなど工夫しながら実施したことで、う歯や歯周病疾患の予防を進めることができた。

事業3 食育推進事業

指標1 食育指導者の派遣校数							R3進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	1
指標目標		8	21	23	25	27	
進捗状況	16	6	12				
指標2 児童生徒の朝食欠食率 (%) ※減少指標目標							R3進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	2
指標目標		1.90	1.85	1.80	1.75	1.70	
進捗状況	1.93	2.01	2.30				

○食育研究推進校において、食育ミニフォーラムを開催し、地域の農産物の良さや家庭に広める研究を行い、実践成果としてまとめた。

○生徒に対し、朝食の大切さやスポーツ栄養と食事などをテーマとした講義による食育指導を行ったが、指導機会の制約などもあり、朝食欠食率が目標に届かなかった。

●研究推進校を中心に地域と家庭との連携に重点を置いた活動を促進するほか、食育指導者派遣では、ICT端末を活用した指導用資料の見直しを行うなど新たな取組を進める。

事業4 学校給食の充実

指標1	地場産農林水産物の使用率 (%)						R3進捗評価
II型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	2
指標目標		17.0	17.1	17.2	17.3	17.4	
進捗状況	16.9	14.7	14.9				

○地場産物は大量調理に適した規格をまとめて確保することが難しい面もあるが、学級閉鎖による急な給食の調整も想定せざるを得ないコロナ禍においては、数多く流通し急な献立変更に対応しやすい一般流通品の使用を優先する傾向もあり、地場産物の使用率が伸びなかった。

○市場から毎月の地場産青果の旬情報や価格情報を受け、学校や給食センターと情報共有を図るとともに、市内で生産された農産物を新たに給食食材として取り入れるなど、地場産品の使用拡大を進めた。また、「地場産推奨献立」で提供するなど地域の食文化の理解にもつなげた。

●地域の生産組合と連携し優先して地場産品を使用する調理施設もあり、こうした取組を他施設で展開するなど、食材の安定供給につながる関係づくりを強化し地場産農産物の使用拡大に努めていく。

3 創造性に富み、世界と共に生きる力の育成

3-2 外国語教育・国際理解教育の充実

事業の進捗平均	3.5
---------	-----

【視点1】

これからの社会で自信をもって自己実現していける子どもを育てます。

事業1 外国語指導助手(ALT)配置事業

指標1	イングリッシュセミナー参加生徒の振り返りにおける満足度 (%)						R3進捗評価
II型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	2
指標目標		80	前年度を上回る	前年度を上回る	前年度を上回る	90	
進捗状況	-	-	90				
指標2	市雇用ALT受入報告書における学校の満足度 (%)						R3進捗評価
II型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	3
指標目標		70	前年度を上回る	前年度を上回る	前年度を上回る	80	
進捗状況	-	75	75				

○コロナ禍においても、全ての学校にALTを配置し、ネイティブスピーカーと対話したり、異文化理解を深める機会を日常的に確保したりした。

また、令和2年度は中止したサマーセミナーや万代高等学校等でセミナーを実施し、コミュニケーション能力を向上させ、主体的に学習できる生徒を育成する機会を設定することができた。

●セミナーについては、学校とALTが目的を共有し、生徒の力を伸ばし、生徒が自立して積極的に外国語学習に取り組むことができるプログラムを計画する。

事業2 国際交流推進事業

指標1	海外訪問に参加した児童生徒のうち、「訪問の経験を今後に生かすことができる」と回答した割合 (%)						R3進捗評価
II型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	2
指標目標		80	前年度を上回る	前年度を上回る	前年度を上回る	100	
進捗状況	-	-	-				
指標2	国際子どもフォーラムに参加した児童生徒のうち、「今後も諸外国の人々と積極的にかかわりたい」と回答した割合 (%)						R3進捗評価
II型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	2
指標目標		80	前年度を上回る	前年度を上回る	前年度を上回る	100	
進捗状況	-	-	-				

○コロナ禍によって、相互の訪問交流が中止となったが、国際課と共に、オンラインによる相互交流を行うことができた。

今後はオンラインによる交流が子どもの国際理解や親睦に資する活動となるような工夫が必要である。

●今後は訪問交流の実施方法を模索するとともに、オンラインによる効果的な相互交流を検証・実践していく。

事業3 外国語教育支援事業

指標1	各種研修(外国語教育マネジメント研修等)における参加者の満足度 (%)						R3進捗評価
II型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		70	前年度を上回る	前年度を上回る	前年度を上回る	85	
進捗状況	-	85.0	98.0				
指標2	児童の外国語の学習が分かるという肯定的評価の割合 (%)						R3進捗評価
II型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		70	前年度を上回る	前年度を上回る	前年度を上回る	80	
進捗状況	-	84.2	84.5				
指標3	生徒の外国語の学習が分かるという肯定的評価の割合 (%)						R3進捗評価
II型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	3
指標目標		70	前年度を上回る	前年度を上回る	前年度を上回る	80	
進捗状況	-	78.6	75.4				

○研修会では、各校の定期テストを持参し、情報交換をしたり、Can-doリストの有効活用について学ぶ機会を設定するなど、充実した内容で実践することができた。特に外国語教育マネジメント研修では、小中連携、高校接続を推進するために、中学校区単位でブレイクアウトセッションを実施するなど、事後のアンケートでは参加者から高い満足度を得た。

○中学生の「肯定的評価の割合」の減少については、新学習指導要領が全面実施され、教科書で扱う文法事項や語彙が増加したことが原因と考えられる。

●児童生徒の「外国語の学習が分かる」という割合を増やすために、研修会や外国語教育通信で指導の好事例を共有する機会を多く設定する。

事業の進捗平均
3.8

【視点1】

これからの社会で自信をもって自己実現していける子どもを育てます。

事業1-① 学校教育情報化推進事業

指標1	新潟市学校教育情報化推進委員会（仮称）の活動						R3進捗評価
II型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	/
指標目標		組織立ち上げ計画作成	計画の周知浸透 環境整備	計画の周知浸透 環境整備	計画の周知浸透 環境整備	計画の周知浸透 環境整備	
進捗状況	-	組織立ち上げ	組織の運営 環境整備				

○定期的な情報化推進委員会を開催し、情報共有や意見交換を行い、教育の情報化ビジョンを策定した。一方、各校園への周知や、ネットワーク環境の実態把握、学校間や教職員間による取組差の最小化が課題である。

●教育の情報化ビジョンを随時更新し、社会状況の変化に応じて、より精度を高く適切なものに改善していく。

事業1-② タブレット等ICT活用に係る教職員研修

指標1	研修会アンケートで「今後、学んだことを使ってみたい」と回答した参加者の割合（%）						R3進捗評価
II型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	3
指標目標		82	前年度を上回る	前年度を上回る	前年度を上回る	90	
進捗状況	-	95	95				

○GIGAスクール全体研修会では、多くの教職員が参加し、アンケートでは、肯定的な評価を多く得ることができた。一方、GIGAスクール環境を生かす意識は高まったが、学校や教職員によって差があることが課題である。

●今後は、管理職、GIGA推進リーダー、一般教員等、職位やニーズに合った研修を行う。

事業1-③ プログラミング教育に係る教職員研修

指標1	研修会アンケートで「今後、学んだことを使ってみたい」と回答した参加者の割合（%）						R3進捗評価
II型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	/
指標目標		82	前年度を上回る	前年度を上回る	前年度を上回る	90	
進捗状況	-	-	90				

○小学校ではプログラミング学習に関する講座を4回行い、多くの教員の不安払拭に努めた。中学校では、技術・家庭科（技術）の担当者に対して、互いの実践を紹介する研修を実施し、活用度を高めるなど、ICT端末を活用した授業づくりをサポートすることができた。

事業1-④ ICT機器を活用した学習活動の充実

指標1	「新潟市の学校教育」実践状況調査において、「児童生徒が情報活用能力を育むために、ICTを活用した授業を実践していますか」で肯定的な回答をした小中学校の割合（%）						R3進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		96	97	97	98	100	
進捗状況	95.7	98.8	100				
指標2	「新潟市の学校教育」実践状況調査において、「児童生徒の情報モラルが向上する授業を実践していますか」で肯定的な回答をした小中学校の割合（%）						R3進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		96	97	97	98	100	
進捗状況	95.7	97.6	98.1				
指標3	全国学力・学習状況調査児童質問紙の質問項目「5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか」で、「週1回以上」と回答をした児童（小6）の割合（%）						R3進捗評価
II型	R1	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		前年度を上回る	前年度を上回る	前年度を上回る	70	90	
進捗状況	22.9	42.9	46.2				
指標4	全国学力・学習状況調査児童質問紙の質問項目「1・2年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか」で、「週1回以上」と回答をした生徒（中3）の割合（%）						R3進捗評価
II型	R1	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		前年度を上回る	前年度を上回る	前年度を上回る	70	90	
進捗状況	22.3	27.4	28.4				

○児童生徒1人1台のICT端末の配備により、指標1の回答は100%となり、指標2も前年度を上回った。学習の基盤となる「情報活用能力」を育む重要性が認識されてきていると考えられる。

○学校間や学級間のICT端末活用の頻度の差を解消していくこと及び、活用の質を向上させていくことが課題であるとともに、情報モラルについては、授業だけでなく、日常的な指導方法も課題である。

●ICT端末活用の日常化を図るとともに、「学習eポータル」の機能を用いて活用率を把握し、必要に応じて活用方法を助言するなどの取組を通して、学校間の格差を減らしていく。また、情報モラルについて、デジタル・シティズンシップの考え（デジタル社会の良い担い手を育てる構え）を教職員や家庭に周知すると共に、必要に応じてテクノロジーによる制限を適切に用いながら、資質・能力を育成していく。

4 共生社会の実現を目指すインクルーシブ教育システムの推進

4-1 子ども一人一人のニーズと課題に対応した特別支援教育の推進

事業の進捗平均
3.3

【視点4】

誰もが安心して学べる環境づくりを進めま

事業2 特別支援教育サポートネットワーク事業

指標1	研修会参加者の理解度（%）						R3進捗評価
II型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		85	前年度を上回る	前年度を上回る	前年度を上回る	90	
進捗状況	-	95	97.9				
指標2	アンケートで「今後に生かすことができる」と回答した参加者の割合（%）						R3進捗評価
II型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	3
指標目標		85	前年度を上回る	前年度を上回る	前年度を上回る	90	
進捗状況	-	97	96.8				

○オンライン形式を含む合理的配慮セミナーを3回行い、いずれのセミナーも参加者の評価が高かった。これは「UDL」や「二次障がい予防と対処」など、参加者にとって関心の高い内容であったことが要因であると考えられる。

●今後は、参加者評価の高かった講師に継続して講師依頼をするとともに、ニーズの高い講義内容を検討し、研修内容の深化と研修効果の向上を図る。

事業3 早期からの就学支援推進事業

指標1	特別支援学級在籍児童の入学支援ファイル提出率 (%)						R3進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	3
指標目標		98	100	100	100	100	
進捗状況	97.0	94.8	98.6				

○就学相談会に参加する保護者数が年々増加する中、限られた時間の中で、保護者の願いや不安な気持ちに丁寧に寄り添い、相談を行うことができた。

○特別支援学級における入学支援ファイルの提出率は昨年度より上昇した。これは、就学相談会において、入学支援ファイルの活用方法について丁寧に説明したことが要因と考えている。

7 家庭教育の充実と子育て支援

7-1 家庭教育・子育て支援の充実

事業の進捗平均	3.5
---------	-----

【視点2】

学びの循環による人づくり、地域づくりを進めます。

事業1 家庭教育振興事業

指標1	家庭教育学級でのアンケートで「今後に生かすことができる」と回答した参加者の割合 (%)						R3進捗評価
II型	R1	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		前年度以上	前年度以上	前年度以上	前年度以上	90	
進捗状況	84.4	91.1	91.2				
指標2	保護者を対象とした家庭教育にかかわる講座等を実施した小中学校の割合 (%)						R3進捗評価
II型	R1	R2	R3	R4	R5	R6	3
指標目標		70	前年度以上	前年度以上	前年度以上	100	
進捗状況	93.8	71.2	70.4				

○コロナ禍により、家庭教育学級は9講座が中止となったが、市内公民館で69講座を実施したほか、就学時健診や入学説明会等の機会に集まる多くの保護者を対象に、子育て関連講演会等を実施するなど、子育て期の親の家庭教育力向上に寄与することができた。

●引き続き、子育て期の親の家庭教育力向上を図り、子どもが健全に大人へと成長していく環境づくりを支援していく。

7-2 乳幼児期からの読書活動推進

事業の進捗平均	4.0
---------	-----

事業1 ブックスタート事業

指標1	ブックスタートアンケートにおいて家庭で読み聞かせをしていると回答した割合 (%)						R3進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標			83		85		
進捗状況	81.4		97.4				

○コロナ禍によりブックスタート事業による読み聞かせを中止していたため、絵本を手渡す際に事業趣旨や図書館での読み聞かせを案内し、保護者への啓発を行った。

事業2 赤ちゃんタイム

指標1	中央図書館及び各区中心図書館において週2回以上実施した館数						R3進捗評価
II型	R1	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		3館は週2回	4館は週2回	前年度の実績を踏まえて毎年度設定	前年度の実績を踏まえて毎年度設定	全7館で週2回以上実施	
進捗状況	2館は週2回(5館は週1回)	3館は週2回(4館は週1回)	5館は週2回(2館は週1回)				

○赤ちゃんタイムの実施回数を拡大したほか、「絵本なんでも相談タイム」の実施館を全館に拡大した。保護者からの相談に対応しながら、家庭での読書環境の充実だけでなく図書館を利用しやすい環境づくりにつなげた。

●全ての中心図書館で赤ちゃんタイムの実施回数を週2回に拡大するほか、子育てに役立つ情報を通じた保護者への啓発を図るため、図書館の公式ツイッターの活用や子育て支援施設との連携を推進する。

8 人生100年時代を見据えた循環型生涯学習の推進

8-1 学び育つ各世代への支援

事業の進捗平均	3.0
---------	-----

【視点2】

学びの循環による人づくり、地域づくりを進めます。

事業1 にいがた市民大学開設事業

指標1	受講者の満足度(前期・後期講座、特別講座) (%)						R3進捗評価
II型	R1	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		前年度以上	前年度以上	前年度以上	前年度以上	95	
進捗状況	89	75	78				
指標2	受講者主体による自主グループ数						R3進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	1
指標目標		15	16	17	18	19	
進捗状況	14	11	10				

○コロナ禍においても、講座の一部にオンラインを導入することで講座の継続性を図った。テーマによっては満足度の高い講座もあることから、テーマ設定や講義内容の創意・工夫を行うなど、学びやすい学習環境について検討・整備する必要がある。

○自主グループについては、会員の減少やコロナ禍による活動休止・解散等が見られたため、現状を把握し、活動の継続にむけた方策を検討する必要がある。

●今後は、受講者層の拡大に向けて講座のテーマや内容を工夫するとともに、親子を対象とした講座も開設する。また、オンライン講義の導入など、学びやすい学習環境を構築していく。自主グループについては、講座修了生との意見交換等を行い、既存自主グループの活動支援のあり方について、関係機関・団体等とも連携しながら検討していく。

事業2 現代的課題を学ぶ公民館事業と学習成果を発表する場の提供

指標1	現代的課題を学ぶ講座等に参加した人の満足度 (%)						R3進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	3
指標目標		95	95	95	95	95	
進捗状況	95	93.5	91.5				

○コロナ禍の影響もあり、多くの講座が中止となったが、市民生活に即した学習機会や、地域課題解消について考える機会、地域の多世代交流の機会の提供に努めたことで、地域への愛着向上や活性化に寄与することができた。

事業3 子どもの読書環境整備事業

指標1	市立図書館の児童書貸出冊数						R3進捗評価
II型	R1	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		前年度以上	前年度以上	前年度以上	前年度以上	1,185,000	
進捗状況	1,160,205	957,839	1,071,306				

○個人への児童書貸出冊数は令和元年度と比べ若干減少したが、団体への児童書貸出数はひまわりクラブ等への広報の成果もあり、全体としては増加となった。

○うちどくブックリストや読書ノートを配布し、読書の習慣化につながるよう働きかけるなど、読書環境の整備に取り組んだ。また、子どもや親子を対象とした読み聞かせや読書週間などを感染対策を講じながら実施し、読書や図書館を利用する契機につなげることができた。

事業4 市民に身近な生活課題解決のための情報提供事業

指標1	情報提供を受けた人と講座に参加した人の満足度 (%)						R3進捗評価
II型	R1	R2	R3	R4	R5	R6	3
指標目標		前年度以上	前年度以上	前年度以上	前年度以上	90	
進捗状況	82	94	87				

○コロナ禍により、予定していた3つの講座のうち、2つの講座が中止となり、満足度を十分に聴取することができなかった。また、レファレンス対応では職員の接遇に課題があり前年度より低い満足度となった。

●講座については、社会の関心が高く市民に役立つようなテーマを選定する。またレファレンス対応については、職員研修を充実させ、分かりやすく丁寧な対応に努める。

8-2 学習成果を生かす活動への支援

事業の進捗平均	3.3
---------	-----

【視点2】

学びの循環による人づくり、地域づくりを進めます。

事業1 生涯学習ボランティア育成事業

指標1	生涯学習ボランティアバンク登録者数						R3進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	2
指標目標		1,390	1,410	1,430	1,450	1,470	
進捗状況	1,367	1,361	1,216				
指標2	生涯学習ボランティア活動件数						R3進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		560	570	580	590	600	
進捗状況	550	1,082	977				

○生涯学習ボランティアバンク登録者自主企画講座を6講座開催したが、コロナ禍の影響で活動件数が限定されたため、ボランティア登録者数は昨年度より減少した。今後も循環型生涯学習を推進し、社会教育と学校教育の連携につなげられる人材の育成と活動の場の支援を行う必要がある。

●中期的な視点に立った生涯学習ボランティア育成講座を実施し、区単位で地域や学校を核として活動するボランティアの育成と活動の場の支援を行っていく。また、生涯学習ボランティアバンクの周知を図るとともに、ボランティア活動の支援方法を検討する。

事業2 地域活動を担う人材の育成

指標1	地域コミュニティ活動の活性化を支援する事業で学んだ成果を今後に生かしたいと回答した割合 (%)						R3進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		82	84	86	88	90	
進捗状況	80	86.1	87.1				

○コロナ禍の影響で中止となった講座もあったが、公民館で88講座を実施し、多世代交流を通じた地域への愛着や貢献意識等の向上、シビックプライドの醸成に寄与した。

9 地域と学校・社会教育施設が協働する教育の推進

9-1 地域と共にある学校づくりの推進

事業の進捗平均
3.0

【視点3】

地域と一体となった学校づくりを進めます。

事業1 コミュニティ・スクール推進事業

指標1	学校運営協議会の設置中学校区数 ※（ ）内は学校数						R3進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		4(12)	8(22)	56(165)	56(165)	56(165)	
進捗状況	-	4(12)	8(22)				
指標2	制度が機能していると回答した協議会の割合（％）						R3進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		80	80	80	85	90	
進捗状況	-	88	89				

○コミュニティ・スクールモデル校では、地域課題を子ども、地域、民間企業が共有し、連携・協働により解決を図るなど、地域の活性化にもつながった地域もあった。

一方、学校運営協議会の設置当初において、委員や保護者、地域住民の制度の理解が進まない地域も見受けられた。

●新たに就任される委員に向け、授業の様子を見たり、行事等に参加したりするなど、現状や実態を把握、理解する機会を設けるよう努める。また、学校運営協議会によって子どもの成長を協働して支えている事例などについて、協議会運営に活用できるよう、さまざまな媒体を用いて周知する。

事業2 地域と学校パートナーシップ事業

指標1	1校あたりの学校支援ボランティア延べ人数						R3進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	3
指標目標		1,320	2,080	2,110	2,140	2,170	
進捗状況	1,989	1,858	2,015				
指標2	市立高校生インターンシップ受け入れ企業数						R3進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	1
指標目標		11	26	28	30	32	
進捗状況	22	11	13				

○学校支援ボランティアについては、登下校の見守りなど校外での活動に加え、授業時の補助や環境整備、行事にかかわる人数が増えている。

○インターンシップ受け入れについては、企業を訪問する形と、企業の担当者による「出前講座」の形で実施したが、コロナ禍の影響により企業の受け入れが進まない状況であった。しかし、活動中の様子や活動後の「振り返り」からは、生徒たちが企業とのかかわりを通して多くのことを学んだ様子が伺われる。

●各校の学校運営協議会で共有した「学校教育ビジョン」や「目指す子どもの姿」に向けた取組の重点化が一層進むよう、区教育支援センターとも連携し、各校への情報発信とサポートを推進する。

10 学びのセーフティネットの構築に向けた取組の推進

10-1 保護者や地域と連携した安心安全な学校づくりの推進

事業の進捗平均
2.5

【視点4】

誰もが安心して学べる環境づくりを進めます。

事業1 地域見守り活動支援事業

指標1	子ども見守り隊を組織し、見守り活動を行っている学校の割合（％）						R3進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		100	100	100	100	100	
進捗状況	100	100	100				
指標2	登下校時における防犯対策に関する「地域の連携の場」を開催した学校の割合（％）						R3進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	1
指標目標		100	100	100	100	100	
進捗状況	100	34	56				

○全ての小学校で子ども見守り隊を組織し、感染症対策を行いながら活動を進めたが、登下校時における防犯対策に関する「地域の連携の場」を開催した学校は、106校中58校となっている。コロナ禍においても「地域の連携の場」が有効活用されるよう方策を検討する必要がある。

●コロナ禍における「地域の連携の場」の活用について検討し、各学校において積極的に開催してもらうよう依頼する。

11 学校教育・生涯学習環境の基盤づくり

11-2 市民の多様な学習に応じた学習環境の整備

事業の進捗平均
2.0

【視点4】

誰もが安心して学べる環境づくりを進めます。

事業2 図書館サービス事業

指標1	市民一人当たりの図書館資料（雑誌、AVを含む）貸出点数						R3進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	2
指標目標		5.4	5.4	5.4	5.4	5.4	
進捗状況	5.4	4.5	4.8				

○コロナの影響により、全館で臨時休館した時期もあったが、事前予約した資料の受取など一部サービスを実施し、市民に資料を提供した。

○令和4年3月から開始した電子図書館の利用を増やすため効果的な周知を図る必要がある。

●電話やメールでの調査相談を行うほか、配本車の運行による市民への資料提供を行うとともに、電子図書館のコンテンツ充実や利用講座を実施し、サービスの充実を図る。

12 市民に信頼される教育関係職員の育成

12-1 教育関係職員の研修プログラムの充実

事業の進捗平均
3.7

【視点5】

市民に信頼される、魅力ある教育関係職員の育成に努めます。

事業1 教育関係職員の研修プログラムの一層の充実

指標1	各研修講座における参加者の満足度 (%)						R3進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	3
指標目標		90	90	90	90	90	
進捗状況	89	79.4	88.5				
指標2	各研修講座アンケートで「今後に生かすことができる」と回答した参加者の割合 (%)						R3進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		90	90	90	90	90	
進捗状況	89	90.5	93				

○コロナ禍の影響を常に想定し、事前に研修方法を複数検討・準備した結果、集合研修から非対面型研修へ速やかに変更するなど、教職員の学びを止めない対応を行うことができた。非対面型研修であっても、前年度よりも運営ノウハウが蓄積されたことにより、満足度・活用度とも評価が上昇した。

●教員免許更新制廃止後の新しい研修体系の確立と、研修履歴等の管理の方策について検討する。また、指導主事の指導力向上を図る研修を実施するとともに、マイスター連絡協議会の活動を支援することにより、教職員の資質向上を図っていく。

事業2 「学・社・民の融合」に関する研修の推進

指標1	地域と学校パートナーシップ事業研修会参加者理解度 (%)						R3進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		95	95	95	95	95	
進捗状況	95	96	99				
指標2	子どもふれあいスクール研修会参加者理解度 (%)						R3進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	
指標目標		98	98	98	98	98	
進捗状況	98	98.5	-				

○指標1では、学校運営協議会制度の導入に向けた動きと本事業の取組とを関連付けて説明した結果、理解度について高い評価を得ることができた。

○指標2は、コロナ禍の影響で、対面式で研修することができず、正確な理解度の把握ができなかった。

●今後も「事業通信」の発行や「地域と学校パートナーシップ事業研修会」での説明、各校に配布する「校内研修用スライド」の中で業務の進め方を具体的に例示するとともに、「子どもふれあいスクール研修会」の実施や各校に配布する研修資料を充実させ、関係職員の一層の理解推進を図っていく。

<事業の進捗評価基準>		達成率＝進捗状況値÷指標目標値×100
		※（ ）内は減少指標目標の場合
評価4	… 指標を達成した	〔達成率100%以上 (100%以下)〕
評価3	… 指標を概ね達成した	〔達成率 90%以上100%未満 (100%超過110%以下)〕
評価2	… 指標を下回った	〔達成率 70%以上 90%未満 (110%超過130%以下)〕
評価1	… 指標を大きく下回った	〔達成率 70%未満 (130%超過)〕

<指標目標の設定型>	
I型	: 第4期実施計画の5か年分を設定
II型	: 「前年度を上回る」「前年度の実績を踏まえて毎年度設定」等
III型	: 数値ではなく文字（文章）で設定

<事業の進捗状況に係る変更点・修正点について>	
・「指標」の表中にある「現状」とは、第4期実施計画策定段階において、指標目標の設定根拠としての現状値を示しています（第4期実施計画本冊の数値を転記）。	
ただし、指標目標が「前年度を上回る」「前年度の実績を踏まえて毎年度設定」等の指標については、R1（令和元年度末時点）の値として変更し、変更した値が分かるように「現状」を「R1」として示しています。	
・新型コロナウイルス感染症の影響を受け、状況に応じた適切な取組がなされるよう、令和2年度以降の指標目標を修正した事業があります。（※上記内容は、令和2年11月の第46回教育ビジョン推進委員会において承認された内容です。）	

3 教育ビジョン推進委員からの主な質問・意見・要望と教育委員会の対応

第49回新潟市教育ビジョン推進委員会において、推進委員からいただいた主な質問・意見・要望と、それに対する教育委員会の回答は次のとおりです。重点施策である「視点1～視点5」に該当する一部を紹介します。

施策1-1「学習支援ボランティア派遣事業」

○学習支援ボランティアについて、実際に学校から要請されている人数と派遣された人数との間の実質数にはどれくらい乖離があったのか、数値があったら教えてください。

⇒学習支援ボランティアについては、84校に166人派遣していたのですが、希望は125校からありました。多くの希望がありましたが、実際に派遣できた学校数は少ないということになります。

施策1-1「理科支援員派遣事業」

○支援員配置の希望が、実際の配置可能数よりも大きく上回り、希望された学校と配置された学校の数の間に乖離があると思いますが、どのくらいの数だったのでしょうか。

⇒理科支援事業については、事前の準備と片付けがとても大変なため、学校からの希望が多くなっています。理科支援員につきましては、配置希望は約80校からありましたが、実際の配置は31校で27人でありました。(学校数に対して人数が少ないのは、兼務している方がいるため)

○今後、学校からの要請により、更に支援員の配置が必要になった場合、予算が不足することが考えられますが、その点についてどのようにお考えでしょうか。

⇒学校からは理科支援員の他にも様々な施策についてニーズがありますので、総合的に考えて、どの施策の数値・予算をあげることがより子どもたちの資質・能力を高めることができるのかを考えた上で決定していきたいと考えています。

○課題として理科支援員の人材不足があると思いますが、例えば、市報などで募集し、応募者を校長が面接して、よければ教育委員会に推薦するなどの方法も考えてはいかがでしょうか。

⇒理科支援員の配置については、限られた予算の中で支援員を採用しているため、希望する全ての学校に対して配置できていない現状があります。現在の支援員には、経験が豊富で、子ども、教師、学校に対して理解の深い方が多くいます。応募については、教育委員会に直接連絡をいただき、教育委員会で条件等を確認した後に希望校へ紹介する場合があります。今後は、

市報などで募集することも含め、支援員の確保に努めていきます。

施策 1-1 「家庭学習習慣の定着」

○家庭学習習慣の定着について、指標が全て令和2年度より下がっていますが、その理由は何でしょうか。また、学校として児童生徒たちに何らかの指導をしないと改善しないと思うのですが、宿題だけで終わらせるのではなく、他の方策があれば教えてください。

⇒宿題はきちんとやっている児童生徒は多いのですが、宿題以外に自主的に家庭学習を行っている割合が少ないということになります。自主的にやりたいから行うということへの意識の変換がまだ不十分だと考えています。そのため、授業と家庭学習の連動が大切だと思っており、学校で学んだことで更に興味が湧き、家でも調べてみようとか、ICT端末を活用して更に深いところを調べてみるということにつながっていきます。そのように発展的な学習が思考力・判断力・表現力に繋がるため、授業で知識を教えるだけではなく、更に広がりがあるような、活用を促すような授業が大事になっていくと思っています。そして、ICT端末は家庭学習を進めていく上で有効であることから、活用について検討し、各学校に周知していければと思っています。

施策 1-1 「学力実態調査の分析」

○学力実態調査の分析の指標1のところ、小6国語のR3が元々の+5.0から大きく下がっていますが、原因が分かれば教えてください。また、小6国語のR3の進捗状況が+1.7、目標が+5.4のため乖離が大きくなっています。他の科目はそれほどでもありません。原因が分かりましたら教えてください。

⇒小学校6年生の国語の数値について、令和元年度の数値がかなり高く、その数値を基準に指標目標を設定しました。令和2年度は調査が実施されず、令和3年度は全国平均を上回ったものの、目標と比べ何が原因で落ち込みがあったかの明確な分析はできていません。

施策 1-2 「キャリア教育推進事業」

○キャリアパスポートを配るだけではなくて、具体的な対応をしなければならないとのことですが、考えや計画があれば教えてください。

⇒子どもたちが、夢や目標をもつために憧れの大人に出会うことがとても大事だと思っています。地域にはそういう方々がたくさんいると思いますので、そういう方々を発掘して、子どもと出会わせる場をつくるということや、出会わせるにあたってのストーリーが大事だと思っています。その点がキャリア教育のいちばん大切なところだと思っていますので、その道筋をつ

けていきたいと思ひます。

○キャリア教育の講演会の内容について、生徒たちの進路に合ったものでないと、理解が得られなかったり、興味が湧かなかつたりすると思うので、内容を吟味する必要があると思ひます。

⇒子どもたちが目的意識をもつことが大切だと思ひますので、子どもの実態に忠じて、何のためにこの講演会を開催するのかについて、子どもたちの実になる活用となるため、目的意識をしっかりと確認するよう、学校にも周知していきたいと思ひます。

施策 2-5「食育推進事業」

○R3の事業計画のところに「小中学校2校を研究指定校に指定し」とありますが、結果を見ると児童生徒の朝食の欠食率が若干増えています。研究指定校若しくは、派遣をしている学校と派遣をしていない学校との間で、朝食の欠食率の差や、指定した効果があるというようなデータはお持ちでしょうか。

⇒データは持ち合わせておりませんが、非常に興味深いご指摘ですので、欠食率及び指定した効果について、お示しできるかどうかも含めて検討します。

施策 7-1「家庭教育振興事業」

○今後の方向性の中で、「子育て期の保護者の年代は、オンライン形式の講座への対応も可能」とありますが、シニア世代でも、オンライン講座等への参加が容易にできるような手法を長期的に考えてくださるとありがたいと思ひます。

⇒若い世代の方は携帯電話などからオンライン会議にスムーズに入ってもらえますので、比較的馴染みやすいと捉えています。ご意見として頂戴しましたシニア世代の方にも、オンラインでの講座等への参加が容易にできる手法を、考えていきたいと思ひます。

○家庭教育振興では、父親が参加しやすい工夫をすることが喫緊の重要ポイントだと思ひます。父親の参加率などを指標としてはいかがでしょうか。

⇒家庭教育振興では、父親の子育てへの意識啓発が重要であると認識しており、父親限定の家庭教育学級の開催のほか、野外活動や遊びを通じて父子交流を図る講座の開催など、様々な手法を用いて父親の参加率向上に取り組みました。さらに、公民館をあまり利用しない父親や若者などの参加促進にオンラインを有効活用する方法を模索しており、指標についても何らかのかたちで設定していきたいと考えています。

○学校を会場とした子育て出前講座について、スムーズな入学に向けて、就学前の健康診断時に、教員からの丁寧な説明や保護者間の懇親を行う方が良いのではないのでしょうか。小学校入学前に不安を抱える保護者は多く、教員からの丁寧な対応があると解消の方向に向かうのではないかと思います。

⇒子育て学習出前講座は、開催を希望する学校からの申し込みを受け実施しています。学校からは就学前健康診断等の際に、講座の開催を希望するケースが多く、入学に向けた説明の時期や子育て出前学習を開催するのかは学校の判断に委ねているのが現状です。

施策 9-1 「コミュニティ・スクール推進事業」

○コミュニティ・スクール推進事業について、学校運営協議会が目指す目的がわからないという声がたくさんあったり、委員の理解が進まなかったりします。本格導入に向けた後方支援をどのように考えているのか教えてください。

⇒コミュニティ・スクールについては、学校運営協議会の基本的な進め方はありますが、具体的な内容については、各地域・学校が決めていくこととなります。そのため、他の好事例をお示しし、それをもとに地域の方や学校、保護者の方が、課題がどこなのかを確認していただき、どのように進めていくかを、検討していただきたいと考えています。今年度から全市で実施する制度のため、各学校では最初からできる部分は多くないかもしれませんが、時間をかけて錬磨できればと思っており、引き続き、必要な情報を提供していきたいと思えます。

施策 12-1 「学・社・民の融合」に関する研修の推進

○「学・社・民の融合」に関する研修の推進について、地域と学校が主体になっていますが、社会教育関係の職員は研修に参加しているのでしょうか。

⇒社会教育施設の職員に対しても研修の案内を行い、研修に参加していただいています。また、今年度から中央公民館、中央図書館の職員から研修の中で話をする時間を設け、より地域や学校との接点が生まれるようにしています。

○「学・社・民の融合」として社会教育を位置付けているのに、社会教育の役割があまり見えてきていません。社会教育の役割が分かるように、制度のようなものをつくってはいかがでしょうか。

⇒近年はコロナの影響により予定していた事業ができませんでしたが、事業のいくつかの柱のうち、学びの拠点づくりという内容があります。ボランティアの数が減少している状況のため、より多くの方に学校等に興味をもってもらう必要があり、その取組の1つとして、公民館や図

書館の事業を、学校を会場として行うこともできます。そのような取組を通して、公民館としては新たな利用者を、学校としては新たに教育に関心をもってもらう人を増やし、マッチングさせるという方向から進めていこうと考えています。

参考資料 新潟市教育ビジョン推進委員会 令和3年度 進捗状況評価経過

No.	開催会議等	開催年月日	協議内容等
1	第48回推進委員会	令和3年 11月24日(水)	○令和3年度 進捗状況中間報告について
2	第49回推進委員会	令和4年 6月9日(木)	○令和3年度 進捗状況最終評価について

新潟市教育ビジョン推進委員会（第8期）委員名簿

任期：令和2年4月1日～令和4年3月31日

(50音順)

No.	氏名	所属
1	小川 崇	新潟市社会教育委員会議副議長 新潟中央短期大学幼児教育科教授
2	鏡 十代栄	公募委員
3	熊谷いみ子	前新潟県立生涯学習推進センター学習相談員
4	小見 直樹	新潟市小中学校PTA連合会会長
5	齊藤 裕子	新潟市小学校長会・結小学校長
6	佐藤 朗子	新潟青陵大学福祉心理学部教授
7	佐藤 靖子	新潟市中学校長会・西川中学校長
8	松井 賢二	新潟大学教育学部教授

新潟市教育ビジョン推進委員会（第9期）委員名簿

任期：令和4年4月1日～令和6年3月31日

(50音順)

No.	氏名	所属
1	小川 崇	新潟中央短期大学幼児教育科教授
2	鏡 十代栄	公募委員
3	熊谷いみ子	元新潟県立生涯学習推進センター学習相談員
4	佐藤 朗子	新潟青陵大学福祉心理学部教授
5	佐藤 邦栄	新潟市小中学校PTA連合会会長
6	中島 伸子	新潟大学大学院教育学研究科教授